明治・大正・昭和　1883►1956

明治 16年　熊田直之が開墾の鍬を入れる（新篠津村の開基）
明治 29年　篠津村から独立して新篠津村となる
　戸長役場が宍粟部落に置かれる
明治 30年　新篠津郵便局が開局
明治 33年　第1・第2・第3・第4簡易教育所設置
明治 37年　石狩川氾濫で大被害
明治 39年　初めて医院が開業
明治 40年　第4教育所が尋常小学校に昇格
明治 41年　第2、第3教育所が尋常小学校に昇格
明治 42年　第1教育所を日新（第2）尋常小学校分教場に
　新篠津村火災予防組合を結成
　洪水による河道の変化により袋達布ができる
明治 43年　石狩川第1期治水工事着工
大正 2 年　新篠津販売組合設立
大正 4 年　新篠津村に2級町村制施行
　8人の村会議員により初の村会が開かれる
大正 5 年　第3尋常小の校舎全焼
大正 8 年　日新尋常小の分教場を第1尋常小学校に昇格
大正 11年　新篠津村役場庁舎が市街地に移転改築落成
　石狩川沿岸の築堤が完成
大正 15年　各部落ごとに農業実行組合設ける
　（宍粟、川下、武田、上達布は昭和2年に組織）
昭和 4 年　新篠津自動車組合設立（新篠津、江別間の定期便を開く）
昭和 5 年　北村字袋達布を新篠津村に編入
昭和 6 年　市街地、宍粟に初めて電灯がつく、石狩川治水第1期工事完成
昭和 7 年　石狩川大洪水
昭和 8 年　公設新篠津消防組を設置し施設消防組織を吸収
　村経済5ヶ年計画の実施に入る
昭和 9 年　村章を制定、石狩川治水第2期工事着工
昭和 10年　最優良更生農村として農林大臣表彰受賞
昭和 16年　村内各小学校が国民学校に改称
昭和 19年　新篠津村農業会が発足
昭和 20年　道農業会新篠津厚生診療所開設
昭和 22年　新興土功組合設立、造田事業開始
　国民学校が小学校に改称、高等科を廃止
　初の村長公選で野村忠三郎が当選
昭和 23年　新篠津村農業協同組合設立、新篠津小学校全焼
昭和 24年　新篠津中学校新校舎落成、各分校を廃止
昭和 25年　全村造田・全村電化の村民大会、新篠津造田期成会を結成
　役場庁舎新築落成、開村55周年記念式挙行
昭和 26年　村長選で野村忠三郎が再選
昭和 27年　新篠津土地改良区設立
昭和 28年　新篠津小学校全焼
昭和 29年　台風15号で大被害
昭和 30年　篠津地域泥炭地開発事業着工
　村長選で野村忠三郎が3選、国民健康保険事業を開始
昭和 31年　新篠津第5小学校開校

昭和　1957►1981

昭和 32年　広報（しんしのつ）第1号発行、高倉中学校開校
　道営灌漑排水事業・団体営区画整理事業の竣工式
　国保診療所落成
昭和 34年　村長選で野村忠三郎が4選
昭和 35年　簡易水道第1期工事（市街）完成・給水開始
　岩見沢大橋が完成・渡初式
昭和 36年　簡易水道第2期工事完成・水道全戸に入る
　集中豪雨で各河川氾濫・滞水3日間
昭和 37年　水害で石狩川頭首工現場の堤防が破れる
　簡易水道完成式、第1小学校火災
昭和 38年　児童会館完成、村長選で野村忠三郎が5選
昭和 39年　新篠津村商工会設立
昭和 40年　村立へき地保育所条例を制定
昭和 41年　市街に村民プール完成
　開村70周年記念式、異常低温で冷害
昭和 42年　新篠津中学校統合校舎完成
　村長選で野村忠三郎が6選
　村旗と新篠津村の日（9月1日）制定
昭和 43年　福祉センター完成
　水稲が史上最高の豊作30万俵突破
昭和 44年　野村忠三郎が任期2年残して勇退
　村長選で北口永作が無投票当選
　役場庁舎完成、新配置機構の執務開始
昭和 45年　運河東側の広域農道開削に着手
　篠津地域泥炭地開発事業の国営・道営事業の全てが完了
昭和 46年　新篠津村総合開発計画の基本構想策定
　構造改革事業のライスセンター竣工
昭和 47年　国保診療所新築・開業
昭和 48年　村長選で川口谷聰が当選、農業基盤整備事務所設置
昭和 49年　月新水道企業団発足
　春の嵐に襲われ被害
　新篠津出張所消防庁舎落成
　新篠津福祉園第1期工事完成
昭和 50年　市街地でゴミ収集車の回収作業始まる
　フラワー団地分譲開始
　石狩川が大氾濫・被害発生
　開村80周年記念式挙行
昭和 51年　「水田総合利用対策」が実施される
　過疎地域振興計画書策定・過疎地域の指定を受ける
昭和 52年　村長選で加賀谷強が当選、新篠津更生園オープン
昭和 53年　自治区・自治会が設立（地区部落会を改称）
　村民憲章条例制定、統合された新篠津小学校開校
　新篠津音頭発表
昭和 54年　第1回青空まつり開催
　村の木（ナナカマド）、村の花（ハナショウブ）制定
　自治センター完成
昭和 55年　大規模な防災訓練実施
昭和 56年　村長選で加賀谷強が再選、集中豪雨で石狩川が大氾濫

昭和・平成　1982►2001

昭和 57年　運動公園オープン
昭和 58年　のびのびプールオープン
　広域農道完工式挙行
昭和 59年　わかさぎふ化事業開始
　すくすく第2保育所完成
昭和 60年　村長選で加賀谷強が3選
　武道館完成、学校給食センター完成
昭和 61年　更生園運営のふれあい館オープン
　堆肥製造工場操業開始
　開村90周年記念式挙行
昭和 62年　第1回めちゃんこフェスティバル開催
昭和 63年　第1回どんとこい1万人まつり開催
　「いね物語」発売
平成 元年　村長選で加賀谷強が4選
　第3回むらこん24を本村で開催
　新篠津村まちづくり総合計画策定
平成 2 年　初の地酒吟醸酒「夢紫苑」発売、保健センター完成
平成 3 年　純米酒「大法螺」発売
　ニューしのつゴルフ場オープン
　しんしのつ温泉アイリスオープン
平成 4 年　資源ゴミ回収始まる
　新篠津排水機場完成、みずほ団地分譲開始
平成 5 年　ふれあいの苑オープン
　村長選で加賀谷強が5選
　地域づくり優良事例知事賞受賞
　しのつ公園に鐘の鳴る展望台オープン
平成 6 年　農業情報システム完成運用
　企業誘致第1号北海アサノコンクリート操業開始
平成 7 年　デイサービスセンターオープン
　女性消防団結成、北海道新篠津高等養護学校完成
　開村百周年記念公園完成・開村百周年記念式典挙行
平成 8 年　中央自治区が新自治会割（8自治会）となる
　『村百年史』刊行（上・下巻・資料編）
　新篠津中学校開校50周年、統合30周年記念式典挙行
平成 9 年　かつら団地分譲開始
　しんしのつ温泉たっぷの湯オープン
　村長選で加賀谷強が6選
　行政改革で役場の機構変更
　大型コメ乾燥調整施設ライスファクトリー完成
平成 10年　第4ゴミ捨て場閉鎖
　しのつ公園スポーツ広場オープン
平成 11年　新篠津村まちづくり総合計画策定
平成 12年　役場庁舎増改修工事完成
　村防災無線開局
　新篠津神社落成
平成 13年　村長選で加賀谷強が7選
　新しのつ麦酒（地ビール）発売開始
　しんしのつ温泉2号井供用開始

平成　2002►2017

平成 14年　初めて新篠津中生徒を海外派遣（オーストラリア）
　資源リサイクルセンター完成
　農協宮田組合長が全国農業協同組合中央会会長に就任
平成 15年　援農者受入の記録刊行
　みのり団地分譲開始
　上湧別町と友好都市提携
平成 16年　たっぷ大橋が完成・渡初式
平成 17年　加賀谷強村長が勇退
　村長選で東出輝一が無投票当選
平成 18年　家庭ゴミ収集有料化開始
平成 19年　江別市・新篠津村合併協議会設置
平成 20年　江別市との合併を断念
　農協宮田組合長が全国農業協同組合中央会会長を勇退
平成 21年　新しのつ幸生園（更生園から改称）改築工事完成
　しんしのつどぶろく特区認定
　新篠津村まちづくり総合計画策定
　村長選で東出輝一が再選
　しのつ公園キャンプ場オープン
平成 22年　新篠津中学校新校舎落成・記念式典挙行
　道の駅しんしのつ登録・オープン
　新篠津小学校大改修工事完成
　新篠津福祉園増築・改修工事完成
平成 23年　東日本大震災緊急消防援助隊北海道隊として新篠津消防署職員2名派遣
　しんしのつ産直市場オープン
平成 24年　純米酒「大法螺」販売20周年記念祝賀会挙行
平成 25年　村長選で東出輝一が3選
　湧別町（旧上湧別町）・新篠津村友好都市提携10周年記念事業挙行
平成 26年　新篠津村学校給食センター開設20周年
　新篠津消防創設100周年記念式典挙行
　しんしのつ温泉アイリス閉館
平成 27年　しんしのつ温泉たっぷの湯でタイ人観光客の受け入れを開始
　新篠津村PRキャラクター「しんしのつのおこめちゃん」誕生
　純米原酒「大法螺」開村120年記念プレミアム発売
　開村120年記念花火大会挙行
　開村120年記念碑建立・開村120年記念式典挙行
　交通死亡事故ゼロ3,000日達成記念コンサート挙行
　新篠津村連合青年団創立70周年記念式典挙行
　第5ふれあいセンター建設工事完了
平成 28年　「高齢者運転免許証自主返納サポート事業」を開始
　「ふるさと納税の返礼品」を開始
　新篠津中学校統合50周年開校70周年記念講演記念式典祝賀会挙行
　新篠津村B＆G体育館改修工事落成式及びイベントを開催
平成29年　「新篠津村ゲートボール協会」33年間の活動に幕を閉じる
　乳児保育所「ひまわり保育所」開園
　東出輝一村長が勇退
　村長選で石塚隆が無投票当選
　新篠津村陸上競技協会創立60年村内一周駅伝大会第50回記念式典祝賀会挙行

History of Shinshinotsu

村が整備され現在に至るまで。

Village

【村の名前の由来】

新篠津村は、明治29年、篠津村（現 江別市篠津）から
分村したことから名付けられました。
篠津はアイヌ語で、「本流が同じ深さで、ゆるやかに流れる（シ・ヌッチ）」
「大きな原野が沼（のような）（シ・ノ・ト）」等の意味からきているようです。

役場の変遷

大正11年

昭和25年

昭和44年

現在の役場

大橋の変遷

昭和35年 岩見沢大橋完成

平成16年 岩見沢大橋

平成16年 工事中のたっぷ大橋

現在のたっぷ大橋

市街地の変遷

昭和10年代 市街付近

昭和30年代 市街地

昭和40年代 市街地

現在の市街地

昭和36年 水害

昭和36年 水害

昭和37年 水害

昭和30年 篠津地域泥炭地開発事業

昭和30年 篠津地域泥炭地開発事業

昭和30年 篠津地域泥炭地開発事業